

教育実習を終えて

日本語日本文学科 4回生

塩見香織

私は母校の高等学校で3週間の教育実習をさせていただきました。楽しいことより悩んだこと、辛いことの方が多実習でしたが、その分辛かったこともどこかへ行ってしまいうくらいの嬉しさもあった、そんな3週間でした。そして短い期間ではありましたが、今回の実習を通して大きく2つのことを学ぶことができました。

1つ目はコミュニケーションの大切さです。生徒はもちろん指導教員の先生やその周りの先生たち、そして同じ実習生の人たちなど、とにかく積極的にコミュニケーションをとっていくことがとても大切であることを強く感じました。実習2週目の月曜日から実際に授業をしていったのですが、初めはあまり生徒と話すことができていなかったため、発問をしても答えてくれないことが多々ありました。私は計4クラスの授業を担当したのですが、授業でしかなかかなか話す機会がないクラスがありました。その状況を何とかしようと、なるべく授業10分前には教室に行き、色々な生徒に声かけを行って行きました。その結果、3週目の研究授業の時には、私の発問に3、4人の生徒が一斉に手を挙げるような、生徒がとても能動的に取り組む授業を作り上げることができました。また先生方や他の実習生とも連携を密にし、意見を言い合える関係作りをしていったので、研究授業の日は20人もの先生方に授業を見ていただき、アドバイスをいただくことができました。そして実習生には授業の練習相手になってもらったり、相談にのってもらったりと、沢山の人の助けをもらったからこそ実習を乗り越えることができました。

2つ目は教材研究の大切さです。実習が始まる1週間前に、私が授業をする範囲をある程度指示していただいたので、指導案・板書ノートはある程度作って実習に臨みました。しかし、いざ教壇に立って授業をしてみると、まだまだ自分の中で理解できていないことがあったり、生徒から思いもよらない質問が出たときに上手く答えることができなかつたりと、自分の教材研究がどれだけ甘かったかということ、身をもって知りました。そのため、自分の中での疑問を解決できたらそれで終わりにするのではなく、どういう質問がでるのかを色々な角度から考え、それに対する答えを全部書き出すという作業をしました。その結果、少しずつ生徒からの質問にも答えていくことができました。また4クラスを担当していたため、同じ授業をしていてもクラスによって反応が全然違いました。クラスの雰囲気に合わせて、言う内容も取捨選択して少しずつ変えていくということにも気をつけました。3週間で20時間授業をさせてもらえたため、失敗を恐れず、自分のやってみたい授業を沢山させていただけたと感じています。

3週間という期間は、本当に短くあっという間でした。しかしその中で得たことは、ここでは書ききれないほどあります。今年の春からは教師として働いていくため、この3週間で得たものをしっかりと活かしていきます。そして多くの人から信頼される教師になれるように、毎日毎日成長し続けていきます。

教育実習を終えて

英語英米文学科 4 回生

宮 永 真 紀

私は中学校で3週間の教育実習をさせていただきました。私の担当クラスは3年2組で、男子生徒より女子生徒の方が少し多いクラスでした。男女仲が良く、元気な良いクラスでした。また、学年は全2クラスで、全校でも特別支援のクラスを含めて全8クラスという小規模な中学校でした。最初は生徒にどう話しかけていいか分からず不安でしたが、休み時間はできるだけクラスに行って生徒に話しかけるようにしたり、放課後は生徒全員が帰るまで教室にいて全員と挨拶をして1日1回は全員と話ができるようにしたりして、生徒と関わる時間を増やして生徒との距離を縮める努力をしました。他にも、生徒の名前は出来るだけ早く覚えるようにしたり、生活ノートを点検させてもらったりしました。

授業は1年生と3年生を担当させていただきました。授業をさせていただいたのは4日目からで、研究授業を含めて13回させていただきました。1年生は担当の先生と交互に、3年生はほとんど全ての授業をさせていただきました。また、授業実習と並行して様々な先生方の授業を見学させていただき、授業の展開方法や生徒の興味の引き方などを学ばせていただきました。授業実習を通して、私は生徒の反応を観察しながら授業を進めることの難しさと大切さを学びました。初めは指導案通りに授業を進めることに精一杯で、生徒の反応を見る余裕がなく、一方的な授業になってしまいました。ゲームをする時にも事前の生徒の観察が十分でなかったためチーム分けを平等になるようにすることができなかつたり、繰り返しで生徒が飽きてしまっていることに気づかなかつたり、上手くいきませんでした。このことから生徒に興味を持ってもらえて分かりやすい授業をするには、生徒の反応を細かく観察し、上手くコミュニケーションを取りながら授業を柔軟に変えていく力が必要だと学びました。さらに、指導案を作る時には、授業の中で生徒に何を身につけて欲しいか、どんな力を身につけて欲しいかを一番に考えることが大切だということも学びました。ただ教科書に載っている文を教えて終わりではなく、教科書に載っている文を学ぶことによってどんな力を身につけて欲しいかまでを考えて、自分の考えが生徒にしっかり伝わるような授業をすることが大切だと思いました。さらに、指導案を作る時も授業をする時も常に生徒の立場になって考えることが必要だということも学びました。文法を説明する時に分かりやすくしようとたくさんの情報を詰め込みすぎると逆に生徒を混乱させてしまつたり、英語を聴かせる機会を増やそうと難しい英語を使ってしまうと伝わりづらく生徒に伝わらなかつたり、自分基準に考えてはいけないということも学びました。

さらに、同じ中学校の他の実習生は担当のクラスで道德の授業をする機会がありました。私は担当していた3年生の修学旅行が実習中に重なっていたため、道德の授業をすることができませんでしたが、他の実習生の話を聞いて、道德の授業は教科の授業に比べて、生徒の意見に柔軟に反応していく力がより必要だと思いました。普段から生徒と密にコミュニケーションを取り生徒の性格などをしっかり把握しておくことも必要だと思いました。

この3週間を通して、大学の授業や模擬授業では学ぶことのできないたくさんのことを学ばせていただきました。教科のことだけでなく生徒との関わり方や学校の様子なども知ることができました。今回の実習で学んだことをしっかり振り返り、教師になっても努力し続けたいと思います。

教育実習を終えて

神戸国際教養学科 4 回生

田 中 優 花

私は母校の高校で、3週間の教育実習をさせていただきました。思い返してみると、実習前は高校時代の恩師である先生方が居る場所で実習ができる嬉しさもありましたが、不安と緊張の方が大きかったです。それでもこの3週間の実習生活は学びが多く、自分自身を成長させることができた有意義な時間でした。

私の配属クラスは2年1組で、授業は2年生の「コミュニケーション英語Ⅱ」と「英語表現Ⅱ」の2科目を2クラスずつで4クラス分担当しました。授業実習は2週目から始まり、2週間で24回授業を行いました。最後の研究授業までは試行錯誤を重ねる日々でした。

私が3週間の実習の中で一番学んだことは、教材研究の大切さでした。授業実習が始まった頃、「説明や授業の展開に迷いが出ると教壇で考えこむ仕草が多い。発音に自信がないと声が小さくなっている。」と度々指摘を受けていました。そんな中で英語表現Ⅱでの「分詞構文」の説明で最大の失敗をしました。導入の授業で板書計画も説明も悪く、生徒を混乱させてしまうことがありました。授業後の反省会で指導教官の先生から「生徒達は全く分かっていない。次の授業でもう一度同じ所をして下さい。」と厳しい注意を受けたことを今でも覚えています。教材研究が不十分だと自分中心になって、生徒の方を意識して授業ができず、学ぼうとする生徒にとっては理解が不十分な授業になることを痛感しました。「教壇に立っているのが教育実習生だとしても、生徒は先生として見るのだから、常に自信を持って授業をしなければならない。」と失敗から学びました。授業実習が始まった頃は指導案を作っても「50分間止まらずにやり通さなければならない。」という重圧で、生徒の顔をまともに見ることができなかったけど、研究授業前には表情も和らぎ、生徒の方にも意識を向けて授業を行うことができるようになりました。生徒からの質問にもしっかりと対応し、生徒の「わかった！」の声を聞くことができました。私はその一言を聞いて本当に嬉しかったです。

実習中、配属クラスの生徒とのコミュニケーションの取り方にも悩んでいました。生徒とは朝のSHRや放課後の掃除のわずかな時間に少し話すぐらいで、授業が終わっても次の授業の準備に追われていて、生徒と一緒に居る時間は短かったと思います。心に余裕を持てれば、生徒との時間をより大切に出来たのではないかと少し後悔しています。もともと自分から飛び込んでいく積極性が強くないため、話のきっかけがつかめずにいました。そんな中で距離を縮める大きなきっかけが進路のことでした。1週目のLHRが進路LHRで、冒頭10分間で自分の大学受験までの経験談を生徒の前で話しました。授業直前の依頼でとても慌てましたが、少しでも生徒にとって良い時間になるようにと一生懸命話しました。私の話を聞いてから、センター試験のことや勉強の仕方、大学生活のことなど色々尋ねてくる生徒が増えて、私も生徒と話すのが楽しくなりました。実習4日目からは学級日誌のコメント書きも担当していて、最終日まで毎日生徒のコメントを読んで自分のコメントを返すのも楽しかったです。実習最終日に2年1組の生徒からもらった寄せ書きには「英語の授業楽しかったです。」「大学受験までの話をし

てくれて嬉しかったです。本当に参考になりました。」と生徒の心温かい気持ちが詰まっていて、「3週間本当に頑張ってきたよかった。」と安堵感で思わず涙を流していました。

私にとって高校での3週間実習は「辛い、苦しい。」と思うこともあったけど本当に充実していました。座学では学べないことを自分の目で見て、経験しながら、自分の未熟さや教師という仕事の難しさも学びました。また校長先生の講話から、教育は常に変わり続けるものであり、教師は常に学び続ける姿勢でいる必要があることも学びました。この教育実習では丁寧なご指導を頂いた指導教官の先生、温かく見守って下さった恩師である先生方、未熟な私を温かく受け入れてくれた生徒達、毎日支え合いながら共に頑張ってきた教育実習生仲間など多くの支えがありました。周りの支えがなければ、無事に3週間乗り越えられなかっただろうし、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この実習での経験を糧として、これからの自分の更なるステップアップに向かって頑張ります。



教育実習を終えて

史学科 4回生

三井 萌々花

9月5日から9月23日まで3週間、母校の高校で教育実習をさせていただきました。教材研究や指導案作り、放課後の部活指導など毎日が忙しく体力のいるものでしたが、改めて教師になりたいという思いが強くなりました。

私は、高校2年生の世界史Bと2年2組のHRを担当しました。1週目は主に授業を見学しました。指導教官の先生は授業のなかに班活動や質問を多く取り入れ、生徒が飽きない授業づくりをされていました。生徒からでる回答に対しても非常に柔軟に対応しておられて尊敬しました。私は1週目の最後の日から授業を受け持ちましたが、実際に授業をしてみると、これまで大学で行った模擬授業とは全く違う雰囲気と緊張感に戸惑い、思うような授業ができませんでした。特に、時間配分が難しかったです。生徒に考えさせる時間を設けながら授業を進めていくと、時間が足りなくなりました。すべての授業に班活動や質問を取り入れましたが、授業計画で想定しているような回答を引き出すことができなかつたり、生徒の意見を取り入れながら臨機応変に授業を進めることができず、満足のいく授業とはほど遠いものでした。どうしても新たな単元を最初にするクラスの授業の進度が遅くなったり、伝え方が曖昧になってしまいました。生徒は授業を1回しか聞けないので、授業に上手い下手など差があってははいけません。私は授業が終わる度に指導教官の先生と反省会を行い、ご指導いただきました。先生の的確なアドバイスで自分自身の授業を冷静に振り返り、少しずつ理想の授業に近づくことが出来ました。授業全体を通して、授業内容に興味をもってもらえるように、導入を工夫したり、重要語句にまつわる小話などをはさむと生徒は集中して聞いてくれたように思います。

HRクラスでは、1週目は特に生徒との関係づくりに努めました。HRクラスには35人いましたが、世界史を選択している人が8人しかおらず、初めはクラスの生徒との距離を縮めることがとても難しかったです。特に、私の母校は大人しい生徒が多く、そこでまず自分から積極的に話しかけないと心を開いてくれませんでした。時間が空いているときには、顔写真付きの名簿表を見て、生徒の顔と名前をなるべく早く一致させようと思いました。また、お昼休みや掃除の時間、放課後を使って、生徒と関わる時間が少しでも多くなるように心掛け、クラスの雰囲気を早くつかめるように工夫しました。実習の2週目くらいからは、体育会にむけての大縄練習が本格的になり、生徒との関わりの時間が増えたので少しずつ生徒との距離を縮めることができました。

この3週間で、指導教官の先生や、担任の先生、校長先生、共に過ごした実習生など、多くの方々に支えて頂いたことで、無事に実習を終えることができました。最終日に「先生、ありがとうございます」という生徒からの感謝の言葉もらい、3週間実習をすることができて本当によかったなと思いました。教師が真剣に関われば、その分生徒からの反応も返ってくるものだと学ぶことができました。先生にとっても、生徒にとっても貴重な時間を頂き、教育実習は私にとって忘れられない密度の濃い3週間となりました。指導教官の先生がおっしゃっていた、「教師が「10」知ってから「1」を教える」という言葉を実現できるように、今後もこの経験を活かし、勉強に励んでいきたいです。

教育実習を終えて

教育学科 3回生

高 畑 沙弥奈

母校での四週間の教育実習を終えて、自分の甘さや、今の自分には足りていないものなど、私自身の課題がより明確になり、教師の仕事とはどういうものなのか少し見えてきました。

私は九月からの実習に備えて、八月の間に自分が授業とする教科の単元の略案を作っていました。しかし私はまずこの時点でとても苦戦しました。大学での各教科の教育法で作った指導案を参考にしながら私なりに一生懸命に略案を作ったつもりでしたが、表現の仕方や、具体性に欠けていてたくさんの改善点がありました。略案を書くのでもこんなに時間がかかるんだと思い、自分が今までいかに不十分なものを書いていたのかを思い知りました。

実習が始まってから四週間の中で一番に感じたことは、授業の難しさです。児童から引き出すような授業をするには、普段から児童がどんなことに興味をもち、どんな考えや知識を今までに身につけてきているのかを把握しておくことが大切だと思いました。また、私は教え込むかたちの授業になってしまうことが多く、特に、発問が的確でなく分かりにくかったので、児童も何を答えればよいのか分からない状態になってしまうことが何度もありました。これからも発問の仕方は私が一番考えないといけない課題であり、ノートに細かくどんな発問をするか文章にして書いておこうと思います。二つ目の課題は知識の乏しさです。特に社会科の授業をした時にそう思いました。「たくさんの知識の中からどこを窓口として授業を展開していくかが社会のおもしろいところだよ」と先生に教えていただきました。児童が興味をもち、学びたいと思える授業ができるように、今のうちにたくさんの窓口をつくっておこうと思いました。そして三つ目に児童との関わりです。私は六年生のクラスに入ることになり、最初は少し不安もありました。初めの頃は六年生の児童達も緊張していたようで、話しかけてくる児童はいつも決まった子達でした。私はもっとみんなと距離を縮められるようにまずは1日でも早く名前を呼べるように覚えて、その子が頑張っていたことや良いところ、逆に授業の中で少し配慮のいるところなどを書きとめて、児童理解に努めました。子ども達は素直で前向きな子が多く、日が経つにつれて児童との距離も縮まってきました。児童は一人一人みんなそれぞれにいいところをもっていました。普段から控えめでおとなしく、自分から「先生ー!」と言えない児童にもっと目を向け、話をすればよかったなというのが反省です。

九月にはちょうど運動会があり、初めて先生という立場から全体の動きを見ることができました。どの競技も先生方は安全面に一番注意されていました。予行演習の後の反省会でも一つ一つの競技について「ここはもっとこんなふうにするとスムーズに進行できるのではないか」といったことや、やはり安全面について議論されていました。また、この時に配慮のいる児童について教師全員の共通理解が必要であることを強く感じました。前日の準備や運動会当日の様子から、このような大きな行事は学校・家庭・地域の協力なしでは成り立たないものだと分かりました。

私がこの教育実習で一番印象に残っていることは、最後の日の研究授業です。私は算数の「速さ」の

授業をしました。いつもはどの教科でもだいたい発表で手を挙げる児童は決まった子達ばかりでした。でもこの授業の時は、ほぼクラス全員の児童の手が挙がり、児童達が私を見る目からは「頑張るぞ」という気持ちがすごく伝わってきて、私は驚きと嬉しさと胸がいっぱいになりました。授業自体は課題もたくさんあり、子ども達に助けられた授業でしたが、事後研修で「先生が教材研究や授業に一生懸命に取り組んでいたのが子ども達にも伝わったようだね。」と先生方に言っていただいととても嬉しかったです。直接私が職員室で作業をしている姿を児童達は見ていたわけではないけれど、子ども達はそんなところも感じとってくれていたんだと気づき、この時初めて子ども達と心が通い合ったような気がして、教師になりたいと強く思えた瞬間でした。教師という仕事は本当に大変な仕事だと思いましたが、私も子ども達の成長の過程に携わって、子どもと一緒に成長していける教師になりたいと思いました。



教育実習を終えて

教育学科 3回生

圓 田 華 子

緊張と不安しかなかった教育実習の一カ月間は、今思うと辛かったことよりも、本当に楽しいことや嬉しかったことばかりを思い出します。教育実習初日には、職員室での自己紹介から始まり、運動場で全校生徒の前での自己紹介、さらには配属クラスの子どもたちの前でも自己紹介をしました。緊張の連続で、なかなか思ったような自己紹介が出来ませんでした。その時同時に感じたのは「楽しい1カ月間が始まりそうだ」でした。学校の先生方も子どもたちも優しく温かく迎え入れてくれて、学べるものは全て学び、自分のものにしよう！という目標だけ強く掲げた事を覚えています。

私がこの教育実習で学んだ事が3つあります。まず1つ目は、「子どもの視線にたちすぎない」です。私はこれまで「子どもの視線と同じ目線で」だとか「子どもと友達のように」を意識していました。しかし教師というものを生の現場で感じて、子どもに勉強を教えるという意味でも手本になるような言動・行動をとるべきであると感じました。その上で、叱るべき事は教師としてしっかり叱り、悩み苦しんでいる子どもには友達のように聞いてあげられるような関係になれば私にとってこの上ない最高の教師像であると考えました。2つ目は、「失敗は成長すること」です。やっとこの言葉を自分自身が経験してから深く思えた事でした。失敗する事を恐れてしまいがちな私なので、なかなか失敗しないように物事を進めるようにしたり、積極的になれなかったりしてきました。しかし今回の模擬授業をすればするほど「失敗する事は恥ずかしい事じゃなくて、自分に足りないところを発見する事ができるものなんだ」という捉え方へと変わりました。それからは担当教員の先生や授業を見てくださった先生方に、自分からアドバイスを聞くようになりました。また、子どもにも聞いてみることで、私の指導でどこまで子どもに理解させる事が出来たのかや、子どもの視線から疑問に思う事でも大人には気にならない注意すべき点がたくさんあることを見つける事が出来ました。自分が成長するためには周りの声をしっかり聞き入れ、教わった事を謙虚に受け止め、それを実践する態度が重要だと感じました。そして3つ目は、「発問の仕方」です。これは自分の大きな課題であると強く感じました。授業を行う中で“準備”をする事は大切です。しかし準備をしすぎる事によりマニュアル通りの授業になってしまったり、予め用意していた発問を出せなかったりした場合も多々出てきます。その時に臨機対応に対応する力が欠けていると授業が止まってしまったり伸びたり縮んだりし、子どもの集中力が切れてしまう事に繋がってしまう事を実感しました。

これだけの課題を見つけさせてくれた教育実習は、私の人生の中で本当に大切なものとなりました。教材研究も大切ですが、まずは子どもの実態を一番に把握しなければならないという事も学びました。クラスの中での学習に対する意欲や習熟度などは本当に様々で、そのような子すべてをできるようにするための教師の働きかけがすごく重要であると改めて思いました。教師になって必ずまた子ども達に会う！という夢をくれた貴重な実習でした。

教育実習を終えて

教育学科 3 回生

渡 部 美 咲

4 週間の教育実習は、私にとって今までの人生の中で一番充実したものとなり、長いようで短い、あっという間の日々でした。実習を行うにあたって、「毎日元気よく児童と接すること」、「指導者としての自覚を持つこと」、「現場でしか学べないことをしっかり吸収すること」の3つを大きな目標として掲げ、臨みました。目標を立てることで、自分の中での目的意識が明確になり、より意欲的に実習に取り組むことができました。そしてこれらを踏まえ学んだことから特に印象深い二つのことを述べます。

一つ目は授業についてです。私が授業を行う前に、先生方の実際の授業の様子を何度か参観させていただきました。45分の授業の中で、児童に何を理解させるのか、何を考えさせるのかを明確にすることが重要で、余談等で話が脱線しても、授業内容と関連づけて児童の理解が深まるよう仕向けている様子がとても印象的でした。教科書通りに授業を展開するだけではなく、それぞれの先生方の余談等を交えた独自の展開がより児童の関心や興味につながると強く感じました。他にも、授業をする環境、時間帯、児童の反応の変化に臨機応変に対応する柔軟さが教師には必要だと気付きました。そのためにも、日ごろから様々なことに関心を持ち、知識のバリエーションを豊富に備えておくことが良いと感じました。そして実際に授業実習では、今までの授業参観を踏まえ教材研究をしっかり行い、また担任の先生からの指導もあり、自分なりに納得のいく授業を展開することができました。どれだけ準備をしても、児童の前に立つまでは不安ばかりでした。しかし、私の想像をはるかに超える児童の積極的な発言や活動のおかげで、自然と緊張もほぐれ私自身も楽しく授業ができました。授業が終わると、児童が「先生の授業わかりやすかったよ!」、「楽しかった!」、「もっとたくさん授業をしてほしい!」などと声をかけてくれて、とても嬉しく思うと同時にものすごくやりがいを感じました。

二つ目は先生方と児童との関わりです。この4週間、現場を体験したからこそ気付けたことですが、先生方の忙しさには本当に驚きました。学級運営や授業はもちろん、児童一人一人との関わりや把握、学級管理の事務処理、地域関連の処理、行事の準備等に追われ、教材研究をする時間もまともでない現状を目の当たりにしました。そんな中でも、担任の先生は毎朝児童を教室で迎え、一人一人と挨拶を交わし、コミュニケーションをとることを大切におられました。先生に話を伺うと、忙しい中でも児童との関わりで、パワーをもらえることが多くあるとおっしゃっており、私も実習中そう感じることはたくさんありました。授業中だけではなく、休み時間も一緒に過ごす中で、日に日に児童と仲良くなることができ、どれだけ実習の疲れが溜まっていたても、児童の明るい笑顔、元気あふれるエネルギーに私も影響を受け、疲れを忘れさせてもらいました。たったの4週間ではありましたが、児童と関わることができ一生忘れられない時間となりました。教師にとって、毎日の児童との関わりはかけがえのないものだ実感しました。

この実習を通して、自信につながったこともあれば、課題も多く見つかりました。この実習でお世話になった実習校の先生方や児童に本当に感謝しています。教師になりたいという思いが強くなった今、実習で学んだことを忘れず、さらに勉強に励み、自分を高め、少しでも自分の目指す教師像に近づけるよう努力していきたいと思います。

教育実習を終えて

教育学科 3回生

笹井紀予

私の4週間は毎日が学びで、本当に有意義なもので、過ぎるのがあっという間でした。多くの思い出ができ、楽しいことも多かったのですが、その中には辛いことや悩むこともありました。しかし、短い期間の中で先生と児童の信頼関係、授業での先生と児童、学級で大切に作る軸など多くのことを学び得て、大変勉強になったと感じています。

実習を通して学んだことは、「多くと関わる」と「学び続ける姿勢」です。実習では初めてのことが多いですが、自分次第で教育実習は楽しくなると思いました。まず私は積極的に外へ遊びに行き、クラスの児童に話かけあらゆることを知ろうとしました。関わりを持つ中で特徴や長所などを知っていきましました。また、毎朝他のクラスに「おはよう」と挨拶に行きました。その理由は、低学年の児童は教育実習生に興味を示してくれているが、なかなか関わる機会がないので自ら関わろうと考えました。クラスを超えた関わりをすることで児童だけでなく各担任の先生方とも深く関わりができました。最初の一週間で児童のことを知ることができ、あらゆる児童と関わるのができた二週間目。三週間目以降には児童の心の内を知るという段階に入りました。自分次第で「多くと関わる」ということができるのだと感じました。

次に二週間目から授業をさせてもらいました。そこで何よりも力を入れたのは教材研究と教材作りです。毎日授業をする中で納得した授業は一度もできませんでした。児童の実態を把握していたつもりでも、自分の指導力の無さに嫌気がさしました。一つ言えることは大学の模擬授業とは全く違うということです。自分が教えるということはこんなにも難しいことなのだと知りました。できる子、わからない子の差、同じ説明でも理解しにくい子、支援の必要な児童、学級にはあらゆる児童がいます。その中で授業をする難しさを痛感しました。そこで私の担当教諭が言った言葉は「とにかくやる」ということです。失敗しても、前に立ち続けるということでした。私は立つからには全力でやろうと思いました。4週間で少しでも児童の納得した顔が見たい、自分の指導力を高めて帰りたいと常に向上心を持ち続けました。教材研究を続けることは大変でしたが、充実した毎日でした。児童とともに学んで、毎日が実践でした。

教育実習を終えた直後、私は教師になることが怖くなりました。今の指導力・体力・語彙力で大丈夫なのかと。でも、教師は学べば学ぶほどあらゆることを知ることができ、達成感を感じられる職業だと思いました。大変ではなく、それ以上に新しい自分を見つけ続けられると思ひ、今教師を目指しています。3回生で一番内容の詰まった一か月でした。

教育実習を終えて

教育学科 4回生

藤田 愛未

私にとって、幼稚園での4週間に渡る教育実習という経験は“一生の宝物”です。

教育実習へ行く前の私は、どう子どもと接していけばいいのかという迷いが多く、本当に実習へ行きやっつけていけるのか不安で仕方ありませんでした。幼児コースとは言っても模擬保育など実際に考えたり、経験したりする機会がほとんどありませんでしたが、不安を抱えながら、実習に向けて準備をしました。

実習当日、不安を抱えながら登園したことを今でも鮮明に覚えています。でも、そんな不安は子どもたちが一気に吹き飛ばしてくれました。初めて会う人にもかかわらず、興味を持って「あみ先生！」と言いながら近づいてきてくれる姿に私は驚きました。自分から子どもたちに積極的に声をかけて距離を縮めていこうと考えていたのに、やっぱり子どもたちの力はすごいなと感じました。

4週間の実習は毎日が驚きと新たな発見の連続でした。基本的には4歳児の一つのクラスで実習をさせていただきましたが、3歳児のクラスや5歳児のクラスでも少し実習をさせていただきました。年齢が違くと遊び方にも大きく違いが見えました。一つ年齢が上がるだけで、遊びのルールをしっかりと理解できていたり、一人遊びをそれぞれが楽しんでいるところをみたりと現場に出てみなければ分からないことばかりでした。その中でも、私にとって研究保育が一番自分の身になり、そして一番苦勞しました。9月に実習だったので、季節に関係のあるもので導入を考えたりと繋がるように組み合わせ保育していくことの難しさを知りました。朝の集いで歌にも入れたり、終わりの集いで話の中に入れたりと前もって子どもたちの頭の中に無意識に触れていけるように考えている先生方の姿を見て、改めて教師がどれだけ大切な立場なのか感じました。研究保育で制作をしましたが、ハサミの使い方、のりの使い方を制作をする前に子どもたちに伝えること。そして分かっているかどうかを一つ一つ聞き返して確認しながら、コミュニケーションを取りつつ説明を聞いてもすぐに行動に移せない子どもには、そばに行き補助をしたり、制作がすぐにできる子と時間がかかってしまう子との差をどうしたらいいのかを悩みました。私の予想を超えた反応を見せてくれた時に焦ってしまったので、臨機応変に対応する力がとても大切でした。しかし、こどもたちは本当に素直で、制作が出来上がり遊び方を見せると、みんなの驚いた顔や早く遊びたいというキラキラした顔を見ることができました。さっそくその日の自由遊びから作ったもので遊んだり、反省点やたくさんの苦勞はあったけれど頑張った甲斐があったなと、とても嬉しかったです。

初めは不安しかなかった実習でしたが、終わってみるとあっという間で、「楽しかった！」の一言です。それは、苦しかったことも含めて子どもたちや実習先の先生方に助けていただいたので、こうして4週間を終えることができました。こんなに良い経験を、私は一生忘れません。

教育実習を終えて

教育学科 4回生

雉子谷 彩 花

私は1年間を通して、大学の付属幼稚園で教育実習をさせていただきました。私は3歳児年少クラスに入らせて頂き、たくさんの経験をさせて頂く中で多くのことに気づき、学ぶことが出来ました。実習が始まったばかりの頃は不安な事もありましたが、純粹で元気いっぱい子ども達や、優しく丁寧にご指導して下さる先生方に支えられ、楽しく、学び多い、充実した1年を過ごすことが出来ました。そして、そのたくさんの学びの中から、私がこれから特に大切に、心掛けていきたいと思ったことを2つ述べます。

1つ目は、子どもの気持ちや今の姿を受け止めることの大切さです。私は実習の中で、クラスの活動よりも自分の好きな遊びをしたいという気持ちが強く、なかなかクラスの活動に参加できない子どもと関わるがありました。最初はクラスのみんと遊べるように「お部屋に行ってみる？」等活動に早くできるようにする事を考えた関わりばかりしていました。しかし、先生方にご相談しながらずっとその子と関わる中で、なぜこの遊びをしたいのか、クラスに帰る時はどのような時か等をその子の姿をよく見て考え、試行錯誤しながら関わるうちに、「何時までここで遊ぶ」「ここまでしたらお部屋に帰る」など、その子が納得するまで遊び、気持ちが落ち着いてから声をかけるとクラスに戻るようになりました。このように、まずは子どもの気持ちを受け止め、一緒に感動したり楽しんだりする事の大切さを改めて学びました。

2つ目は、焦らず見守ることの大切さです。4月の3歳児の姿は、入園したばかりで緊張や不安が大きく、できない事が多い子どもがほとんどでした。靴を履いたり、登園して荷物の整理をしたりなど、大人にとっては何気ない簡単なことでも、子ども達にとってはやり始めたばかりの経験です。ゆっくりする子どももいれば、できないと泣いてしまう子どももいました。その時に教師がすぐに手伝うのではなく、「〇〇君、1人でご用意できてすごいね。頑張ってる姿見てるからね」と子どもの姿を認め、その子の自信に繋がるような声かけをしたり、泣いている子どもに対して「〇〇君が頑張っているかっこいい姿見たいな」「先生と一緒にやってみようか」など、子ども一人ひとりに合った声かけを担当の先生がされていました。このように、子どもが失敗も成功も含めたたくさんの経験ができるように、教師はすぐに手を出さず見守ることも大切だと学びました。

1年間通して実習させていただく中で、上記の他にも、クラス運営の大変さ等も実感しました。しかしその分、やりがいのある仕事だと改めて感じましたし、長期間の実習だったからこそ、子ども一人一人としっかり関わることができ、子どもの成長をより身近に感じたりなど、本当にたくさんの貴重な経験をすることができました。最後になりましたが、お忙しい中、優しく丁寧にご指導して下さったりご相談にのってくださった先生方に心から感謝申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。

教育実習を終えて

家政学科 4回生

富田唯華

私は高校で教育実習を体験しました。実習中、一番に感じたことは、教師という職業は、自分たちが想像しているものよりはるかに多忙であることです。授業の準備、分掌の仕事、生徒の状態把握、それに加え、突然起こる出来事（生徒の交通事故、生徒同士の喧嘩 etc）の対応を先生方が常にされているのを見て、教師という職業の多忙さを実感しました。

また、実習中に苦勞したこと・感じたこと・得たことが多かったのは授業です。授業の準備、授業、授業後とそれぞれにあります。

授業の準備では、授業をする内容について深めることです。「なぜその内容を教えるのか・生徒とのやり取り・時間配分・板書計画・質問への対応」これらを考え、準備をすることに大変苦勞しました。クラスによって生徒の反応や授業の進度が違います。そのクラスにあった授業の準備をしなければならないことで、ただ同じ内容の授業をすればいいのではないということと、1つのことを教えるためには、教師は100知っておかなければならないのだと感じました。

授業中では、自分が準備した通りに授業が進んだことはほとんどありませんでした。実際の生徒の反応や時間配分が準備の際と異なることで苦勞しました。しかし、授業中に生徒が「分かりやすかった・家庭科好きになった」など言ってくれたときはとてもうれしく感じました。

授業後は、授業で出来なかったことの反省や次への改善点で、より生徒が意欲的に授業に参加してくれるか、どこが悪かったのかなど考えることで得ることが多かったと思います。

教育実習では多くのことを学ぶことができ、実習に参加して良かったと思います。

栄養教育実習を終えて

管理栄養士養成課程 4回生

筒井杏奈

私は小学校で教育実習をさせていただきました。実習期間が5日しかなく、その中で児童と打ち解けられるのかとても不安でしたが、子どもたちは初日からたくさん話しかけてきてくれ、子どもたちの溢れんばかりのパワーに驚かされたことを今でも鮮明に覚えています。母校ではなかったこともあり、大変緊張し、不安も多々ありましたが、温かく迎えてくださった先生方や児童の笑顔、言葉に支えられ、非常に充実した5日間を過ごすことができました。その中で私が学んだことは2つあります。

1つ目は、「自分から積極的に行動することの大切さ」です。栄養教諭も教諭であるからには「児童を知る」ということが必要不可欠となります。しかし、栄養教諭は担任をもつことができないため、児童と関わる時間というのはやはり限られてしまいがちです。そのため、児童を知るには、休み時間や給食の時間、日々の些細な声掛けを大切に、自分から積極的に児童と関わる時間を作っていくことが重要であると学びました。実習中も自分から積極的に児童と関わろうと思い、休み時間には運動場に出て一緒になわとびをしたり、様々な話を聞いたり、廊下ですれ違う時は明るく笑顔であいさつをしたり、少しでも多く児童との時間を作るようにしました。また、児童だけでなく、教職員の方とも積極的に関わりをもつようにすることも重要であると学びました。食に関する指導をするにあたっては、担任の先生など他の先生の協力が必ず必要となってきます。日頃から栄養教諭が積極的に行動し、食育を理解してもらえるように努め、協力体制を作っておくことで児童に対してより良い指導ができるようになって感じました。食に関する指導は柔軟に対応することが求められている分、栄養教諭が積極的に行動するかどうかで良くも悪くもなることを学びました。

2つ目は、「教材研究等の事前準備の大切さ」です。これは研究授業と給食の時間にさせていただいた5分程度の指導のなかで特に感じました。わずか5分程度の指導であっても、自分がしっかり教材研究をし、加えて児童の興味をひき、かつわかりやすい媒体をきちんと準備できていた日とそうでない日とでは児童の反応が大きく違っていました。しっかり準備ができていた時は自分にも少し余裕が生まれ、児童の表情や反応も見ながら話をすることができました。実際に児童の前に立って授業・指導をしてみても、その授業・指導のなかで児童に何を伝えたいのか、どういう力をつけてほしいのかといったことを明確にし、それに合わせて教材研究等の事前準備をきちんと行うことが大切であることを痛感しました。そうすることで、授業・指導の内容が深まり、児童にとって本当に意味のあるものになるということを学びました。

5日間の教育実習は大変なことも多くありましたが、それ以上に得たものが多くありました。この経験を忘れず、今後の教員生活でも努力し続けていきたいと思えます。

最後に、慕ってくれた子どもたち、丁寧に指導してくださった先生方、そのほか教育実習でお世話になった皆さんに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

栄養教育実習を終えて

健康スポーツ栄養学科 4回生

田中 まりあ

5日間という大変短い教育実習では、やればやるほど、毎日を経過すほどに自分自身への課題が山ほど見付き、手応えを掴み始める前に、これからというところで終わりを迎えてしまいました。しかし、今回教育実習を行ったことによって、指導の工夫の仕方を学ぶことが出来ました。指導していただいた先生方は子供たちへの愛情にあふれていて、いつも笑顔で子供たちと関わっておられました。その中で、最も印象に残っていることは大きく分けて2つです。

1つ目は、「アレルギーに対する工夫の大切さ」です。教育実習に行くまでは、学内でのアレルギー対策について、“弁当を持参する”“代替食品を用いる”等の給食現場での対応の仕方しか理解をしていませんでした。しかし、実際にはそのような対応を取るまでに保護者の方との関わり方が大切になってくること、児童自身がしっかりと理解することの重要性について、改めて考えさせられました。

実習校では、保護者の方に食物アレルギー対応希望調査票というものを記入してもらうことでアレルギーを把握し、さらに献立表に含まれているアレルゲンに対するチェック表を作成し、毎月しっかり確認をしているとのことでした。また、教員同士の認知を共有するために職員室内にアレルギーのある児童の情報を貼り、ミスがないようにされていました。アレルギーは、最悪児童の命を奪ってしまいかねないものであるため、保護者の方との多くの確認、教員の認知は非常に重要だと思い知らされました。そのためにも、保護者や児童とたくさんコミュニケーションをとることで、信頼関係を築いていくことが大切なのだと思いました。

2つ目は、「児童と接することの難しさ」でした。普段の生活の中で、小学生と関わることがないため、初めはどのように接すればよいかわからずとても戸惑いました。そして、初日から授業のお手伝いや児童の前に立たせてもらう機会をいただいたのですが、私自身が緊張してしまうと、その緊張が児童にも伝わってしまうということをその中でとても感じました。また、給食の時間では、1年生のクラスで食べていたため、高学年との接し方の違いにも戸惑いを感じていました。しかし、実習期間も3日目となり、自分から児童と積極的にコミュニケーションを取っていかなければならないと感じました。児童たちと関わる時間は短いものの、積極的にいろんな話題を出し、話をしていくことで児童たちも「先生、先生」といろんな話をしてくれるようになりました。

短い期間でしたが、指導していただいた先生方もとても良くして下さい、恵まれた環境で自分なりに充実した教育実習を通して、教師という職の難しさや、児童と関わることの難しさを実感することが出来ました。また、教師という職の楽しさに触れることが出来ました。この度の経験を活かし、積極的に学んでいく姿勢を大切にしていきたいと思います。

観察実習レポート

教育学科 2回生

森 本 理 花

1. スクールサポーターとしての活動から得たもの

①児童との関わりから得たもの

スクールサポーターでは今までの地域のボランティアとは違い、とても多くの子どもたちと関わる事ができました。本当に子どもたちは一人一人違って、その子に合う言葉がけやその子に合った支援の仕方など自分の中の引き出しを少し増やすことができたと思います。特に、算数の支援では言葉を一つ変えたり、絵や図を入れたりすることで子どもが理解してくれました。

②教師との関わりから得たもの

週に1度の活動だと、1週間で子どもの様子は変化するので、支援が必要な子どもの最近の様子や、学習状況を担任から聞くことで、活動しやすくなりました。その中でも、困ったことがあれば質問したり、担任の対応を見たりして学ぶことができました。先生方は、忙しい中でも朝や放課後、活動記録のコメントなどで活動についてアドバイスをくれたのでとても自分のためになりました。

③学校という組織との関わりから学んだこと

私が活動させてもらっていた小学校では、教員間でのコミュニケーションがよく取られていて、どの先生に尋ねても、同じような答えが返ってきました。支援が必要な子どもについて、支援方法や最近の子ども様子を担任以外の先生からも教えてもらうこともあり、多くの先生方に支えていただきました。このようなことから、教職員間の連携の大切さを身をもって感じる事ができました。

2. 特別支援教育、学級経営、教材研究のいずれかに的を絞って貴女が小学校で学んだことを記述してください。

特別支援教育について、小学校で多くのことを学びました。私は、特別支援学級で活動することは少なかったのですが、通常学級で学んでいるけれど少し支援の必要な子どもたちと接することが多かったです。特に接することが多かったのは、授業中の立ち歩き、教室の外に出る、モノを倒す壊す投げる、たまにクラスメイトに手を出してしまう、といった様子の男の子でした。しかし、それはほんの一部で、図鑑を読みながら生き物の特徴をたくさん教えてくれたり、音楽では大きな声で歌っていたり、というように自分の好きなことは一生懸命頑張っている様子もたくさん見られました。その頑張っているところに目を向けて、話を広げてみたり、たくさん褒めてみたりしました。波があるようなので、いつも同じ支援の仕方では上手くいかないこともありましたが、担任やその他の先生方からもたくさんアドバイスをいただき、自分の中で様々な方法を試してみることができました。他にも、支援が必要な子どもが多く、現状、担任ひとりでは対応が大変そうだなと感じました。

3. 将来教師になったときこのスクールサポーターとしての経験をどう教育活動に生かしますか？

私は将来、スクールサポーターで学んだことを活かして、子どもたちそれぞれに合った支援を積極的に行いたいと考えています。小学校はどうしても、授業は一斉指導になりがちですが、子ども一人一人できることやできないこと、得意なことや苦手なことが違っているし、「できる」といっても子どもそれぞれで程度も違っているので、やはりその子に合った支援方法を考えなければならないと思いました。将来は、上手に一斉指導と個別指導を組み合わせながら、子どもたち一人一人の成長に繋がるような指導や支援を工夫したいと思います。また、授業中だけではなく、登下校や休み時間、掃除の時間や給食の時間など子どもたちの様子をよく見てたくさん声をかけて、子どもたちを知る努力を日々積み重ねていきたいと思っています。

4. スクールサポーターの活動と学業の両立の困難点、課題、またスクールサポーターというシステムの課題について記述してください。改善点・アドバイスがあれば記述してください。

2回生は、クラスによって時間割の都合で1日空けることが困難であり、小学校で1日活動する日が少なかったです。また、大学に行ってから小学校に行ったり、小学校に行ってから大学に行ったりということが何度もあり、移動がしんどいと感じることもありました。大学が休みで小学校は始まっている9月は、1日小学校で活動することができました。半日だけでは分からない、小学校の1日の流れを見ることができたり、子どもたちの様子の変化を見ることができたりしたので、1日活動できる方がいいなと感じました。時間割は大学が定めているものなので、私たちにはどうしようもないことですが、もし可能なら配慮してほしいと思いました。

5. 2、3回生は来年もスクールサポーターに応募しますか？しませんか？またその理由を記述してください。4回生は下級生にスクールサポーターを勧めますか？勧めませんか？またその理由を記述してください。

今はまだ決まっていません。3回生の時間割を見てから考えようと思っています。春休みから神戸市の「通常学級におけるLD等への特別支援」の支援員の活動をしようと思っています。春休み以降も支援員を継続するかもしれません。支援員の活動とスクールサポーターの活動をどちらの活動もするとすると、最低週に2日、半日以上が必要になります。そのため、3回生の時間割を見てから、時間があればスクールサポーターの活動にも参加したいと考えています。大学の授業に支障が出ない程度に活動を行いたいと思います。スクールサポーターでの経験はとても貴重なものだったので、今後もしできれば続けていきたいという気持ちが強いです。

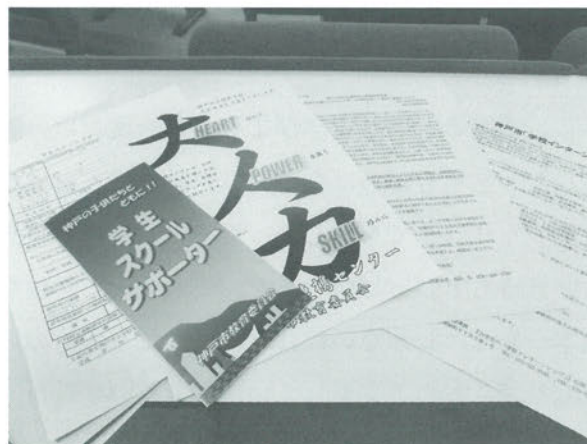
6. サポーター小学校の出来事で一番印象に残っていることを記述してください。

一番印象に残っていることは「音楽会」です。私はスクールサポーターをするにあたって、行事というのをとても楽しみにしていました。しかし、私が活動している小学校は運動会が5月にあり、私は6月から活動を始めたので、運動会を見ることはできませんでした。そのため、音楽会はずっと楽しみにしていました。子どもたちにとっても、行事というのは大きな楽しみであると思います。その時期は、

1年生で活動することが多かったのですが、練習が始まったばかりのころは、曲とは思えないくらいバラバラの音でした。毎週、活動に行くたびに「ここ弾けるようになった!」「先生聴いて!」という子どもたちの声が増え、成長していく過程を見ることができました。音楽会当日は、最初のバラバラの音から、ひとつのちゃんとした曲になっていました。たくさん練習しただろうというのが伝わってきて、とても感動しました。音楽会では、いつもと違った子どもたちの姿や、一生懸命な様子、緊張している表情や楽しそうな笑顔など、キラキラした子どもたちを見ることができました。

7. その他、特別支援、学級経営、スクールサポーターについて何かあれば自由に記述してください。

スクールサポーターとして小学校で活動してみて、子どもたちは一人一人違って、支援の方法や言葉がけに悩むこともたくさんありました。しかし、先生方に聞いたり、先生方を見ていたりすると、様々な方法を学ぶことができました。自分の引き出しを増やすことができたし、今そういった経験しておくことで、将来のためになると思えました。活動している小学校では、子どもたちと接することがもちろん中心でしたが、先生方とたくさん話したり、研究授業を見せていただいたり、様々な経験をさせていただきました。大学で学ぶことももちろん大切ですが、大学だけでは学ぶことのできない現場を知ることができました。とても貴重な時間でした。



観察実習レポート

教育学科 4回生

岩田 悠

1. スクールサポーターとしての活動から得たもの

①児童との関わりから得たもの

高学年の児童との関わりの難しさを感じました。今年は高学年と関わる機会が多くありました。授業中のサポートだけでなく、休み時間なども一緒になることがあり、関わる距離をうまく保つことが大切だと感じました。高学年になると近すぎても遠すぎても、関わられることが面倒くさいと思っているのだろうと考えていました。程よい距離は児童それぞれ違うのでその児童に合った距離を大切にしようと思いました。

②教師との関わりから得たもの

先生方と関わる中で、児童に対する愛情をたくさん感じました。そして、その中で甘やかすことだけが愛情ではなく、厳しい一面も愛情だと感じました。児童がこの先このまま大きくなると大変な思いをするだろうと思って叱ることが、児童にはなかなか伝わりません。それでもその場は厳しく叱り、そのあとにフォローされている姿を見ました。先生方とお話をさせていただくことで、児童にどんな思いを持ってどんな対応をしたのかを聞くことができ、先生方の児童に対する愛情を感じる事ができました。

③学校という組織との関わりから学んだこと

学校という組織から、家庭や地域との連携の大切さを学びました。行事では学校に多くの人が入りますが、不審者が紛れ込まないように学校は工夫をしています。それに対して、保護者や地域の方々が協力することで、万全の対策ができているのだと感じました。

2. 特別支援教育、学級経営、教材研究のいずれかに的を絞って貴女が小学校で学んだことを記述してください。

特別支援教育の難しさを感じ、支援の大切さを学びました。一度だけ、朝の時間に特別支援学級で読み聞かせをさせていただきました。学年もばらばらで、障がいも様々な児童が集まっている教室でみんなが集中してお話が聞ける環境づくりはとても難しかったです。ほんの一瞬でもみんなの視線が絵本に集まったときはとてもうれしい気持ちでいっぱいでした。一人一人に必要な支援が違うからこそその難しさを感じました。そして、絵本一冊だけしかないけれど、一人でも多くの児童が少しでも長い時間、絵本に集中してお話が聞ける環境や読み方の工夫をしていこうと思いました。

3. 将来教師になったときこのスクールサポーターとしての経験をどう教育活動に生かしますか？

3回生の教育実習を終えてから、スクールサポーターに行くたびに、学生という視点だけでなく、一人の教師としての視点を持つようになりました。4回生になり、教師が現実的になってからは特に教師という視点で見るようになりました。特定の先生だけでなく、様々な考えを持った先生方と関わり、実

際実践してみたいと思うような取り組みもありました。授業だけでなく、学級経営の部分においてもたくさんあり、教師になった時には一度取り組んでみて、自分なりにアレンジしていきたいです。

4. スクールサポーターの活動と学業の両立の困難点、課題、またスクールサポーターというシステムの課題について記述してください。改善点・アドバイスがあれば記述してください。

特に課題はないようにかんじます。4回生にもなると授業も少ないので週1回以上活動できました。

5. 2、3回生は来年もスクールサポーターに応募しますか？しませんか？またその理由を記述してください。4回生は下級生にスクールサポーターを勧めますか？勧めませんか？またその理由を記述してください。

下級生にスクールサポーターを勧めたいと思います。大学の授業だけでは学べないことも学ぶことができます。また、行事などにも参加させてもらうことで、授業以外の先生方の動きを知ることができました。様々な経験は教員になった時にきっと役に立つと思いました。また、積極的に参加することで、校長先生をはじめとする先生方から今後につながる評価やアドバイスもいただくことができました。

6. サポーター小学校の出来事で一番印象に残っていることを記述してください。

今年度、私は学校行事にも参加させていただきました。特に運動会は練習の期間からたくさん参加させていただき、前日の準備や当日も児童や先生方と一緒に動きました。当日は白熱した戦いを見ることができ、表現では心が一つになって動きが揃う素敵な演技を見ることができました。児童と一緒に勝つ喜びや負ける悔しさ、達成感を味わい私自身も子どもの頃に戻った気分でした。当日のために練習や準備の期間は先生方が児童のことを思いながら様々な工夫をしていました。先生方と児童が一体になって取り組む姿はとても印象的でした。

7. その他、特別支援、学級経営、スクールサポーターについて何かあれば自由に記述してください。

2回生から3年間スクールサポーターとして活動して、充実した時間を送れました。先生方も様々なアドバイスをしてくださったり、行事に呼んで頂いたり学校裏側も見ることができました。たくさん学んだことを生かして4月から活動していきたいです。